

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和4年度報告)

香川県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

本県の被害防止計画は県内17市町のうち、16市町で作成されている。
対象鳥獣としては、獣類ではイノシシ(16市町)、ニホンザル(11市町)、アライグマ(11市町)、ニホンジカ(11市町)、鳥類ではカラス(12市町)、カワウ(9市町)等となっている。

2 事業効果の発現状況

地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載する。
総合支援事業(推進事業、整備事業)及び緊急捕獲活動支援事業の活用により、被害低減が図られている。
総合支援事業(推進事業)では、狩猟免許取得者の育成、捕獲機材の整備、被害防止対策研修会の開催等、総合支援事業(整備事業)では、ワイヤーメッシュ柵の整備を行っている。
また、緊急捕獲活動支援事業では、イノシシ、ニホンザル、ニホンジカの捕獲に積極的に取り組んでおり、捕獲頭数も増加している。
鳥獣被害防止都道府県活動支援事業では、効果的なカワウ対策を行うための詳細な生息実態の知見が得られた。

3 被害防止計画の目標達成状況

被害防止計画の目標の達成状況を記載する。
令和4年度で計画が終了した12市町のうち、7市町については目標を達成できた。
県では集落に寄せ付けない環境づくり、侵入防止対策、捕獲を3つの柱として、対策の取組み推進を図っているものの、近年、被害金額は横ばいから微増傾向で推移している。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
高松市鳥獣被害防止対策協議会 (高松市)	高松市	2	イノシシ	籾わな導入	10基	高松市鳥獣対策協議会	R3.3	100%	イノシシによる農作物被害の多い集落で防護柵の設置を個別にききかね、概ね被害はなくなり、安心して収穫できるようになったとの農家の声が届いている。 センサーカメラで防護柵の際を監視し、イノシシの気配があると、籾わなを設置し、捕獲対応している。防護柵の高さも集落で行い、イノシシの影射があると、その都度補強するなど、維持管理に努め、防護の効果も維持している。狩猟免許取得者の育成により、費用負担が軽減され、新規捕獲事業の稼働に寄与したほか、イノシシ捕獲用籾わなを導入し、猟友会がイノシシの出没の多い地区に設置し、捕獲している。令和2年度は前年度よりイノシシの有害捕獲頭数は減少したが、令和3年度からは一変して捕獲頭数は増加した。(令和4年度のイノシシの有害捕獲頭数は1,970頭で、令和2年度比16%増加。)	2,746	4,002	57.4%	815	1,483	-91.5%	令和4年度のイノシシの有害捕獲頭数は1,970頭となり、近年は2,000頭前後で推移している。一方で、被害金額、面積は増加傾向となっているため、効果的な捕獲の実施、防護柵を増加する対策を継続して積極的に行っていく。 イノシシ被害が多い果樹園への侵入防止柵の設置は、起伏が多い条件となるため、柵の下部に隙間を作らないように丁寧な施工と日常管理の徹底により被害防止に努めてほしい。 カワウは生息羽数が増加しており、昨年駆除を実施した牟礼町では羽数が減少しているが、住宅に近い池周辺でコロニーが確認されている箇所もあり、対応策を地元と協議しながら検討していく。	イノシシの捕獲は行われているが、個体数の減少には至っていない状況があるため、耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置により総合的な被害防止対策に努めてほしい。また、イノシシ被害が多い果樹園への侵入防止柵の設置は、起伏が多い条件となるため、柵の下部に隙間を作らないように丁寧な施工と日常管理の徹底により被害防止に努めてほしい。 カワウは生息羽数が増加しており、昨年駆除を実施した牟礼町では羽数が減少しているが、住宅に近い池周辺でコロニーが確認されている箇所もあり、対応策を地元と協議しながら検討していく。	有害捕獲や侵入防止柵の設置により、被害金額、被害面積ともに軽減目標の達成には至っていない。 より一層の被害低減に向けて効果的な捕獲を実施するとともに、生息環境管理、侵入防止対策を含めた総合的な被害防止対策に取り組んで欲しい。
			イノシシ	籾わな導入	22基													
		3 (補正)	イノシシ	侵入防止柵	1,000m	高松市鳥獣対策協議会	R5.3	100%										
			イノシシ	侵入防止柵	900m	高松市鳥獣対策協議会	R5.3	100%										
			イノシシ	籾わな導入	10基													
		イノシシ	有害捕獲	1カ所														
		4	カワウ	有害捕獲	1カ所	高松市鳥獣対策協議会	R5.3	100%										
カワウ	刺し網導入		2カ所															
高松市	高松市 全域	R2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	1,632頭	-	-	-	令和4年度のイノシシ等有害鳥獣目撃及び相関件数は476件(対前年比21%)増で過去最多となり、イノシシ等が人里の田畑に出没する状況が年々増加しているが、このような状況の中、イノシシの捕獲については、猟友会を中心に年間を通して行われ、令和4年度は1,970頭(交付対象頭数:1,726頭)の捕獲実績となり、被害の軽減に寄与している。また、捕獲従事者の高齢化が進む中、狩猟免許取得費用を助成することで、新規捕獲従事者の養成を図り、継続してイノシシ等の捕獲ができるよう推進している。	203	243	35.7%	308	142	300.0%	イノシシにおいては積極的な捕獲により被害が減少したが、今後とも被害体制の充実を図り捕獲を継続していく。アライグマ、ハクビシンについては、被害額が増加しており効果的ではない。 イノシシは捕獲や侵入防止柵の設置により被害が減少しているが、今後とも総合的な被害防止対策を継続して被害防止に努めてほしい。 アライグマやハクビシンは、単価の高い作物の被害が多いので、餌付け防止や侵入防止柵の設置、効果的な捕獲により対策を推進してほしい。(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)		
		R3			1,722頭													
		R4			1,726頭													
		R2			0頭													
		R3	6頭															
		R4	4頭															
		R2	13頭															
		R3	7頭															
		R4	14頭															
		丸亀市鳥獣被害防止対策協議会 (丸亀市)	丸亀市		2												イノシシ	有害捕獲
3	イノシシ			有害捕獲	籾わな3基	丸亀市鳥獣被害防止対策協議会	R3.8	100%										
3	イノシシ			有害捕獲	<<りわな97基	丸亀市鳥獣被害防止対策協議会	R3.8	100%										
4	イノシシ			有害捕獲	籾わな8基	丸亀市鳥獣被害防止対策協議会	R4.8	100%										
4	イノシシ			鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵500m	丸亀市鳥獣被害防止対策協議会	R4.9	100%										
丸亀市	丸亀市 全域	4	イノシシ	有害捕獲	<<りわな180基	丸亀市鳥獣被害防止対策協議会	R4.8	100%	市南部地域において、集落と山の境界でイノシシによる水稲及び野菜類、果樹類の被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うと共に、集落を囲うように山際に侵入防止柵を設置。各集落に併せて有効な捕獲となった。また、島しょ部においてもイノシシが頻りに出没するようになり、作物被害に限らず、人的被害防止の観点からも、緊急捕獲活動支援事業を活用して、猟友会が捕獲活動を行うとともに、島しょ部住民に狩猟免許の取得を促し、捕獲活動の充実が図られている。	502	1,169	-138.6%	501	964	-303.7%	イノシシの捕獲は進んでいるが、個体数の減少には至っていない状況があるため、耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置による対策を継続して被害防止に努めてほしい。 アライグマやハクビシンは、単価の高い作物の被害が多いので、餌付け防止や侵入防止柵の設置、効果的な捕獲により対策を推進してほしい。(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)		
		2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	130頭	-	-	-										
		3	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	146頭	-	-	-										
		4	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	128頭	-	-	-										
坂出市	坂出市 全域	R2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	305頭	-	-	-	猟友会を中心としたこわな<<りわなの設置による有害捕獲により、イノシシの捕獲は進んできている。平成28年度より連年捕獲を実施している。令和2年度~令和4年度の期間においては平均して年間約325頭を捕獲しており、一定程度の農業被害抑制につながっている。	502	1,169	-138.6%	501	964	-303.7%	イノシシの捕獲は進んでいるが、個体数の減少には至っていない状況があるため、耕作放棄地の解消など集落環境の改善や侵入防止柵の適切な設置による対策を継続して被害防止に努めてほしい。 アライグマやハクビシンは、単価の高い作物の被害が多いので、餌付け防止や侵入防止柵の設置、効果的な捕獲により対策を推進してほしい。(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害)矢木聖敏)		
		R3	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	347頭	-	-	-										
		R4	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	325頭	-	-	-										

普通寺市鳥獣被害協議会	普通寺市全域	2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	156頭	-	-	-	イノシシの捕獲数に関して、R2年度381頭・R3年度340頭と比較して、R4年度は457頭（捕獲奨励金の対象として報告のあつたものをのみを含める）となり大幅に増加した。しかし、被害は依然として増加しているため、個体数の増加の可能性が考えられる。	103	71	297.5%	210	10	1017.4%	イノシシの個体数が増加していることに加え、単個の高い作物の被害が多かったため、被害面積以上に被害金額が多くなったと考えられる。 全体としては目標を達成しているが、個別で見ると(イノシシの)目標達成にはまだまだ取組の拡大が必要であるように考える。 また、カラスの被害状況に関しては、現在把握できている被害以上に実際の被害が発生していると思われるため、被害状況の把握を進めるとともに、対策も継続して進めたいと考えている。 イノシシの捕獲数に関しては、捕獲奨励金額を令和4年度に1頭あたり1万5千円に値上げしたこともあり、大幅に増加した。このまま狩猟者には捕獲に対して積極的な姿勢で取り組んでもらえるよう取組を続けて行く。 捕獲については、狩猟者の高齢化も大きな問題であるが、狩猟免許取得時にかかる費用の全額負担の取組の効果もあつてか、毎年数名ずつではあるが新規狩猟者確保を進められている。	イノシシ被害が多い奥樹は比較的高い作物であり、果樹園への侵入防止柵の設置は、起伏が多い条件となるため、柵の下部に隙間を作らないうつ丁寧な施工と日常管理の徹底により被害防止に効果的ではない。(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	有害捕獲により、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標の達成が図られている。 今後、より一層の被害低減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。
		3	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	178頭	-	-	-										
		4	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	151頭	-	-	-										
観音寺市鳥獣被害協議会	観音寺市	2	イノシシ	鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵822m	観音寺市鳥獣被害対策協議会	R3.2	100%	本市では、北部に七宝山、南部に讃岐山脈を横し、山間部や山際の集落における生活圏への侵入、農作物の被害に住民は苦慮している。本事業を活用し侵入防止柵を設置したこと、イノシシの侵入を防ぐことができ、目撃数や被害の減少につながった。市独自の取組として、狩猟免許申請手数料や防除機具、猟具の購入を補助し、イノシシの個体数増加防止に取り組んでいる。アライグマについては、本市では、外来生物法に基づく防除実施計画を策定しており、これに基づき捕獲従事者登録者を育成し、霜害を利用した着実な個体数減少を図る捕獲活動を行った。カラス、ヒヨドリ、ムクドリに関しては、統弊又は捕獲により、被害状況に応じて捕獲を行った。現在は鳥獣被害実施隊員により捕獲により捕獲を行っている。これらの取組により、観音寺市におけるイノシシの捕獲頭数は、2年度と4年度を比較しても増加が認められている。一方で、カラスの捕獲頭数は2年度から4年度にかけて約41%増加している。知能が高いため捕獲の効果が高く、天敵不在、豊富な餌といった理由で、個体増加に歯止めがかからないことが原因と考えられる。	182	160	148.2%	240	160	240.0%	イノシシについては、有害捕獲や侵入防止柵の設置によって被害防止計画の目標を達成できた。課題となっているカラスの個体数増加をはじめとして、イノシシ、シカ、ヒヨドリ、ムクドリについては、被害状況に応じて、統弊による適切な捕獲を進める。また、捕獲数が伸びないアライグマに関しては、計画的な防除に従事する防除従事者の養成、安全で効果的な捕獲ができる箱わなによって、引き続き対応する。	集落環境の改善、侵入防止柵の設置、効果的な捕獲による総合的な被害防止対策を継続してほしい。(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	有害捕獲により、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標の達成が図られている。 今後、より一層の被害低減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。
		3	-	-	-	-	-	-										
		4	-	-	-	-	-	-										
観音寺市	観音寺市全域	2	イノシシ	有害捕獲	623頭	-	-	-	本市では、北部に七宝山、南部に讃岐山脈を横し、山間部や山際の集落における生活圏への侵入、農作物の被害に住民は苦慮している。市独自の取組として、狩猟免許申請手数料や防除機具、猟具の購入を補助し、イノシシの個体数増加防止に取り組んでいる。アライグマについては、本市では、外来生物法に基づく防除実施計画を策定しており、これに基づき捕獲従事者登録者を育成し、霜害を利用した着実な個体数減少を図る捕獲活動を行った。カラス、ヒヨドリ、ムクドリに関しては、統弊又は捕獲により、被害状況に応じて捕獲を行った。現在は鳥獣被害実施隊員により捕獲により捕獲を行っている。これらの取組により、観音寺市におけるイノシシの捕獲頭数は、2年度と4年度を比較しても増加が認められている。一方で、カラスの捕獲頭数は2年度から4年度にかけて約41%増加している。知能が高いため捕獲の効果が高く、天敵不在、豊富な餌といった理由で、個体増加に歯止めがかからないことが原因と考えられる。	1739	2007	7.7%	3480	2631	230.6%	イノシシについては、有害捕獲や侵入防止柵の設置によって被害防止計画の目標を達成できた。課題となっているカラスの個体数増加をはじめとして、イノシシ、シカ、ヒヨドリ、ムクドリについては、被害状況に応じて、統弊による適切な捕獲を進める。また、捕獲数が伸びないアライグマに関しては、計画的な防除に従事する防除従事者の養成、安全で効果的な捕獲ができる箱わなによって、引き続き対応する。	有害捕獲や捕獲従事者の確保、育成により、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標の達成が図られている。 今後、より一層の被害低減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。	
		シカ	有害捕獲	13頭	-	-	-											
		イノシシ	有害捕獲	583頭	-	-	-											
		シカ	有害捕獲	17頭	-	-	-											
観音寺市	観音寺市全域	2	イノシシ	有害捕獲	500頭	-	-	-	この取組み等により、令和元年に比べ令和4年度の有害捕獲捕獲頭数はイノシシ1.2倍の1,584頭、サルは2.2倍の236頭、シカは1.7倍の80頭共に増加した。	655	1,046	-269.3%	3,773	2,528	341.7%	イノシシ、サルについては追い払い対策の実施や捕獲従事者の増加により捕獲頭数の増加と被害面積の縮小を実現した。しかしアライグマ、ハクビシンによる被害の増加も懸念され、野果への被害が目立ち、被害金額が大幅に増加していることから、新たな捕獲体制の確立が急務である。今後とも様々な取組みを継続するとともに、侵入防止柵の設置と維持管理の強化、そして統弊等々の環境整備や小型有害鳥獣捕獲の取組みも強化していく必要がある。	有害捕獲や捕獲従事者の確保、育成により、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標の達成が図られている。 今後、より一層の被害低減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。	
		シカ	有害捕獲	15頭	-	-	-											
		イノシシ等	初心者狩猟講習会受講料補助	12名	さぬき市鳥獣被害対策協議会	R3.2	100%											
さぬき市鳥獣被害防止対策協議会	さぬき市	3	イノシシ等	初心者狩猟講習会受講料補助	4名	さぬき市鳥獣被害対策協議会	R4.3	100%	イノシシ、サル被害については、市南部の山間地域に多かったが、近年は市内全域に被害が拡大していることから、鳥獣被害防止総合支援事業を活用し、狩猟免許取得希望者に向けての予備講習会の受講料の補助など、幅広い層を対象に事業を行った。	1,739	2,007	7.7%	3,480	2,631	230.6%	イノシシ、サルについては追い払い対策の実施や捕獲従事者の増加により捕獲頭数の増加と被害面積の縮小を実現した。しかしアライグマ、ハクビシンによる被害の増加も懸念され、野果への被害が目立ち、被害金額が大幅に増加していることから、新たな捕獲体制の確立が急務である。今後とも様々な取組みを継続するとともに、侵入防止柵の設置と維持管理の強化、そして統弊等々の環境整備や小型有害鳥獣捕獲の取組みも強化していく必要がある。	有害捕獲や捕獲従事者の確保、育成により、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標の達成が図られている。 今後、より一層の被害低減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。	
		4	イノシシ等	初心者狩猟講習会受講料補助	3名	さぬき市鳥獣被害対策協議会	R5.3	100%										
		2	イノシシ等	初心者狩猟講習会受講料補助	12名	さぬき市鳥獣被害対策協議会	R3.2	100%										
さぬき市	さぬき市全域	2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業(有害捕獲)	1,072頭	-	-	-	地区猟友会や鳥獣被害対策実施隊等と連携を図り、年間を通して捕獲を行うことで捕獲頭数は増加傾向にある事から、有害鳥獣の捕獲促進に大きく寄与している。また、冷凍庫を利用した捕獲個体処理を運用することで捕獲者の負担軽減にも繋がっている。	1,739	2,007	7.7%	3,480	2,631	230.6%	イノシシの捕獲は進んでいるが、被害金額が大きく増加している状況があるため、耕作放棄地の解消や侵入防止柵の適切な設置に努めるなどにより総合的な被害防止対策に努めてほしい。 アライグマやハクビシンは、単個の高い作物の被害が多いため、捕獲推進だけでなく、餌付け防止や侵入防止柵の設置対策を加えた総合的な対策を推進してほしい。(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	有害捕獲や捕獲従事者の確保、育成により、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標の達成が図られている。 今後、より一層の被害低減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。	
		3			1,299頭	-	-	-										
		4			1,248頭	-	-	-										
		2			59頭	-	-	-										
		3	115頭	-	-	-												
		4	18頭	-	-	-												
		2	64頭	-	-	-												
		3	94頭	-	-	-												
		4	0頭	-	-	-												
		2	8頭(運搬:1回)	-	-	-												
		3	50頭(運搬:8回)	-	-	-												
		4	69頭(運搬:11回)	-	-	-												
		東かがわ市	東かがわ市全域	2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	545頭	-										-
3	563頭			-			-	-										
4	630頭			-			-	-										
2	120頭			-			-	-										
3	106頭			-	-	-												
4	91頭			-	-	-												
3	132頭			-	-	-												
2	85頭	-	-	-														
三豊市	三豊市全域	2	イノシシ	緊急捕獲活動	1,165頭	-	-	-	イノシシについては、三豊市内全域で出没しており、柵の設置が市内全体で進んでいるが、柵の設置ができていない地域や、柵の維持管理が不十分な地域で被害が起きている。 三豊市鳥獣被害対策実施隊を中心に有害捕獲を実施し、捕獲促進に努めている。生息頭数が減少しているにもかかわらず不明である。 ニホンザルは生息数が大幅に減少したが生き残り数が少ない群れが確認されており、今後も継続した取組みが必要とされている。 ニホンジカは農業被害はないものの、市内で有害捕獲があることから、引き続き捕獲活動を行う必要がある。 全体を通して、被害面積については目標値よりも削減することができたが、被害金額については単個の高い奥樹等の被害が多かったため目標値よりも多い数値となっている。	346	938	-583.8%	1,128	864	193.6%	イノシシは捕獲活動が順調に進んでいるが、侵入防止柵の設置や維持管理が十分でないために被害が発生しているようであり、今後は集落環境の改善、侵入防止柵の設置、効果的な捕獲による総合的な被害防止対策を継続してほしい。また、イノシシ被害が多い奥樹園への侵入防止柵の設置は、起伏が多い条件となるため、柵の下部に隙間を作らないうつ丁寧な施工と日常管理の徹底により被害防止に効果的ではない。(香川県農政水産部農業経営課 主任専門指導員(鳥獣害) 矢木聖敏)	有害捕獲により、被害面積は減少し、軽減目標は達成している一方、被害金額は現状値を上回っている。 より一層の被害低減に向けて生息環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つの対策に取り組んで欲しい。	
		3			1,322頭	-	-	-										
		4			1,262頭	-	-	-										
		2			1頭	-	-	-										
		3	3頭	-	-	-												
		4	2頭	-	-	-												
		2	2頭	-	-	-												
		4	2頭	-	-	-												

土庄町鳥獣被害防止対策協議会(土庄町)	土庄町全域	2	ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	狩猟免許の取得	4名		R2.9	100%	<p>・狩猟免許取得経費補助による狩猟者の確保を図った結果、豊島地区を中心に狩猟者の増加に至った。</p> <p>・わな購入による有害鳥獣捕獲拡充により捕獲数の増加を図った結果、3か年平均1,022頭の鳥獣害捕獲が行われた。</p> <p>・狩猟講習会によって、鳥獣保護管理法等に関する遵守及び捕獲技術の向上をはかった。</p> <p>・鳥獣害被害についても、目標金額及び面積共に被害の抑止に繋がった。</p>	848	468	282.7%	466	383	174.1%	<p>猟友会、関係団体等と連携し、被害防止対策を継続して実施している。</p> <p>捕獲技術の向上、捕獲に使用するわなの増設による有害鳥獣捕獲の拡充が図られた結果、捕獲頭数が増加した。しかしながら、捕獲数に見合って被害自体を抑えきれないことから、害な個体数は減っていないのが現状である。このため、今後も継続して捕獲圧をかけ続けるとともに、各種被害対策を実施する必要がある。</p>	<p>有害捕獲や捕獲機材の整備等により、被害金額、被害面積ともに減少し、軽減目標の達成が図られている。</p> <p>今後、より一層の被害低減に向けて生態環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つへの対策に取り組んで欲しい。</p>
			イノシシ	稲わな大購入	22台		R3.3	100%									
			ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	くりわな購入	40台		R3.3	100%									
			ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	初心者狩猟講習	1回		R2.12	100%									
			ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	狩猟免許の取得	4名		R3.9	100%									
			イノシシ	稲わな大購入	7台		R4.3	100%									
		3	ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	くりわな購入	27台		R4.3	100%									
			ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	初心者狩猟講習	1回		R4.1	100%									
			ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	狩猟免許の取得	7名		R4.9	100%									
			イノシシ	稲わな大購入	8台		R5.3	100%									
			ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	カワウ駆除	1回		R5.3	100%									
			ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ	初心者狩猟講習	1回		R5.3	100%									
土庄町	土庄町全域	2	ニホンザル	緊急捕獲活動支援事業	664頭	-	-	-	<p>猟友会、関係団体等と連携し、被害防止対策を継続して実施している。捕獲技術の向上や捕獲に使用するわなの増設が図られた結果、3か年平均1,022頭の鳥獣害捕獲が行われた。令和4年度は再びイノシシ捕獲頭数が増加に転じている。</p> <p>今後も継続した捕獲を実施することで、農地の被害防止に繋げていく。</p>	-	-	-	-	-	<p>被害防止計画で掲げた目標値に対しては達成となるが、未だに農作物被害は後を絶たない。ニホンジカについては一定の成果が得られていると思料するが、イノシシについては令和4年度被害面積が増加傾向にある。</p> <p>ワイヤーメッシュ柵や電気柵の設置に対する補助も併せて実施していることから、予防策に加え、捕獲を継続的に行うことで、農地の保護を図っていく。</p>	-	
			ニホンザル	23頭													
			ニホンザル	309頭													
			イノシシ	640頭													
			ニホンザル	18頭													
3	ニホンザル	232頭															
	イノシシ	970頭															
	ニホンザル	6頭															
	ニホンザル	206頭															
小豆島町鳥獣被害防止対策協議会(小豆島町)	小豆島町	3	ニホンザル	サル捕獲用わなの購入	10基		令和4年3月	100%	令和3年度の捕獲頭数は25頭で、稲わな購入後の令和4年度は33頭になった。昨年度よりも8頭多く捕獲した。	-	-	-	-	-	-	-	-
			ニホンザル、ニホンザル、イノシシ、タヌキ、ヌートリア	狩猟免許試験予備講習会受講料補助	2名		令和2年9月	100%	狩猟免許取得に要する経費を補助することにより狩猟免許取得者の増加につながる。								
			ニホンザル、ニホンザル、イノシシ、タヌキ、ヌートリア	狩猟免許試験予備講習会受講料補助	2名		令和4年9月	100%									
			ニホンザル、ニホンザル、イノシシ	初心者狩猟講習会講師料	1式		令和2年11月	100%	初心者狩猟講習会を開催することで、鳥獣保護管理法等の遵守や捕獲技術の向上につながる。								
			ニホンザル、ニホンザル、イノシシ、タヌキ、ヌートリア	初心者狩猟講習会講師料	1式		令和3年12月	100%									
ニホンザル、ニホンザル、イノシシ、タヌキ、ヌートリア	初心者狩猟講習会講師料	1式		令和4年11月	100%												
小豆島町	小豆島町全域	2	イノシシ(成獣)	有害捕獲	974	-	-	-	<p>平成26年度を境に、小豆島町内で、イノシシ、シカが急増し、鳥獣被害件数が増加した。それに伴い、鳥獣捕獲等助成事業(泉単)と連携しつづ、緊急捕獲活動支援事業を活用し、有害鳥獣の捕獲と被害防止に力を入れてきた。令和2年度から令和4年度はピーク時に比べ捕獲頭数は減少傾向にあり、イノシシは約600頭、シカは500頭、ニホンザルは150頭の減少となったが、イノシシ、ニホンザルに関しては、一定量の捕獲ができており、適正な数に近づいていると思われる。しかしながら、サルに関しては、捕獲の難しさが原因で捕獲頭数は目標より少ない結果となった。</p>	141	171	35.1%	550	688	42.5%	<p>猟友会、関係団体等と連携し、被害防止対策を実施している。また、農地を守るための侵入防止柵をつける農家が増えたため、イノシシやニホンザルの被害件数が減少した。しかし、ニホンザルは捕獲や被害防止が難しく、小豆島全域に害れが拡散されたため、被害数が増加した。今後は、ニホンザルの捕獲に力を入れ、被害軽減につなげていきたい。</p> <p>イノシシやニホンザルは捕獲により被害が軽減できてきているようであるが、サルは被害防止効果が十分ではない。また、イノシシやニホンザルの被害件数が減少した。しかし、ニホンザルは捕獲や被害防止が難しく、小豆島全域に害れが拡散されたため、被害数が増加した。今後は、ニホンザルの捕獲に力を入れ、被害軽減につなげていきたい。</p>	<p>有害捕獲や捕獲従事者の確保・育成等の取組みにより、被害金額、被害面積ともに減少しているものの、軽減目標の達成には至っていない。</p> <p>より一層の被害低減に向けて生態環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つへの対策に取り組んで欲しい。</p>
			ニホンザル(成獣)	45													
		ニホンザル(成獣)	656														
		イノシシ(成獣)	924														
		ニホンザル(成獣)	25														
		ニホンザル(成獣)	440														
		イノシシ(成獣)	988														
		ニホンザル(成獣)	33														
		ニホンザル(成獣)	383														
		三木町	三木町全域	2	イノシシ	緊急捕獲活動支援事業	356頭	-									
サル	緊急捕獲活動支援事業				27頭												
シカ	緊急捕獲活動支援事業			10頭													
イノシシ	緊急捕獲活動支援事業			522頭													
サル	緊急捕獲活動支援事業			38頭													
シカ	緊急捕獲活動支援事業			9頭													
イノシシ	緊急捕獲活動支援事業			320頭													
サル	緊急捕獲活動支援事業			38頭													
シカ	緊急捕獲活動支援事業	4頭															
綾川町	綾川町全域	2	イノシシ	緊急捕獲	368頭	-	-	-	<p>中山間地帯においてイノシシによる水稲や野菜類の被害及びため池等の埋や土手、田畑の踏踏等の繰り返し被害が多発していたことから、緊急捕獲活動支援事業を活用し、鳥獣被害対策実施隊が被害多発地域に稲藪を多めに設置し有害鳥獣捕獲を行うと共に発射時の安全を考慮し、電気止め刺し器を使用する。これらの取組みにより、令和2年度までは例年捕獲頭数が400頭前後であったが、令和3年度では637頭と200頭あまり増加した。</p>	997	1,469	39.8%	545	774	44.1%	<p>イノシシについては、稲わなや捕獲実施隊員の増員等を行なったが目標達成できなかったものの、被害は減少している。サル・シカについては、例年2〜4頭の捕獲であり、被害報告は受けていない。アラグマ・ヒヨドリ等は捕獲機を活用し捕獲しているが、被害はあまり出ていない。アラグマは捕獲頭数は増加して被害も減少したが、ハクビシは捕獲頭数は増加したが被害が拡大した。</p>	<p>有害捕獲により、被害金額、被害面積ともに減少しているものの、軽減目標の達成には至っていない。</p> <p>より一層の被害低減に向けて生態環境管理、侵入防止対策、捕獲の3つへの対策に取り組んで欲しい。</p>
			イノシシ	緊急捕獲	504頭												
		イノシシ	緊急捕獲	340頭													
		イノシシ	緊急捕獲	340頭													

香川県	香川県 全域	令和4 年度	カワウ	鳥獣被害防 止都道府県 活動支援事 業	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・専門業者に委託し、県内の島嶼部を中心とした主要生息地においてねぐら入り・ねぐら立ち調査を行い、正確な生息数や営巣数をカウントし、繁殖状況を把握した。 ・調査の結果、これまで本県で実施してきたモニタリング調査は過小評価であること、近年の冬季の個体数増は県外（滋賀県）からの移入の影響であること等が推察された。 ・また、各生息地の立地条件やねぐらコロニーの形成状況を踏まえた対策の検討を行った。 ・被害状況の把握のため、60個体の胃内内容を調査したところ、約2/3は空胃や消化が進んでいたため同定が困難であったが、確認ができたサンプルからは汽水域を好む魚（コモンロ、ボラ、スズキ）等が比較的多く出現した。 	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・厳密な生息調査を行い、これまでの調査は過小評価となっていることが推察された。今後、調査体制の充実を図るとともに、生息状況の季節変化や内陸部の生息状況についても把握する必要がある。 ・被害状況については、時期や場所により異なると考えられるため、全容の把握は困難であるが、多様なデータの蓄積に努める必要がある。 ・得られた知見を踏まえ、対策を実施している市町との連携を強化し、計画的な対策を促進していく必要がある。 	-	効果的なカワウ対策に資するため、十分な調査体制を整備する必要がある。 得られた知見を踏まえ、対策を実施している市町との連携を強化し、計画的な対策を促進していく必要がある。
-----	-----------	-----------	-----	------------------------------	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	--	---	--